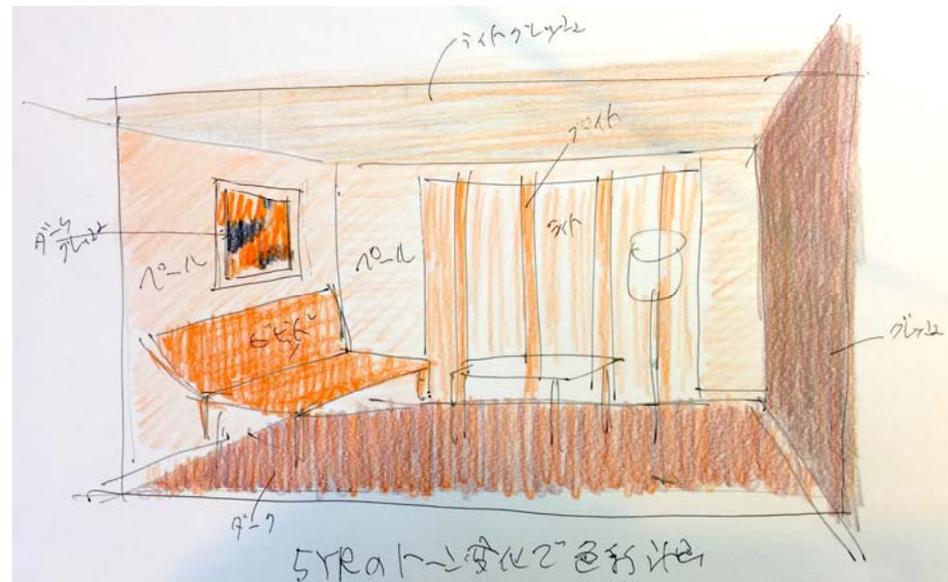


第2回 色鉛筆による混色練習

色鉛筆は絵の具のように直接混ぜることができないので、持っている色以外の色を作るには重ね塗りします。混色には2つの目標があります。一つはイメージした色をつくること、もう一つは木や石などの自然素材の深みのある質感を重ね塗りによって表現することです。今回はイメージした色をできるだけ正確に、簡単につくる方法を練習します。次回(第3回)は素材の質感表現を練習します。

1. 混色の基本: 18色からどんな色が生まれるか体験します
2. 色相の調整: 基本6色から20色相を作ります
3. 明度と彩度の調整: 混色の手順の例: マンセル5YRの場合
それぞれの色の役割を確認します
4. 同一色相によるインテリアの色彩計画: 暖色系5YRの場合
5. 付録トレーニングペーパーの使い方
6. 前回付録トレーニングの作例

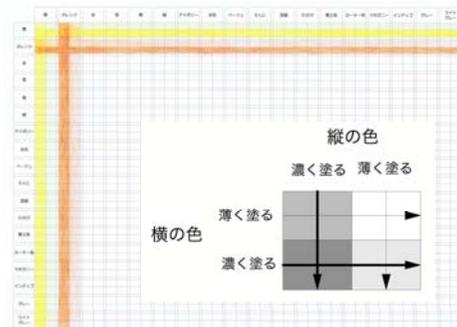
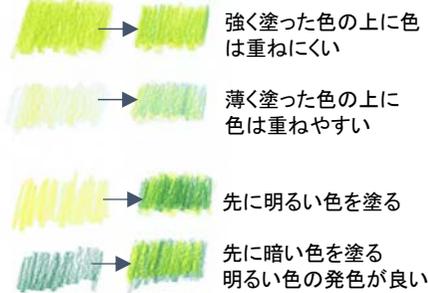


色鉛筆による色彩のエスキース
色彩計画を練るときに、身近にある色鉛筆でスケッチすることは、思考を妨げられずに短時間で気楽にできる優れた方法です。

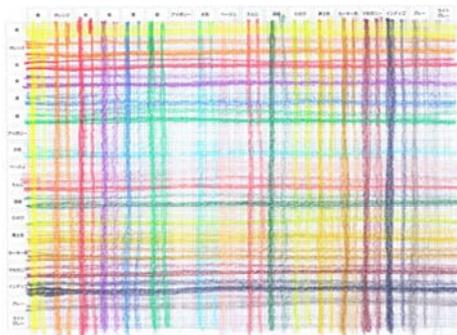
第2回 色鉛筆による混色練習

1. 混色の基本

第1ステップ／第2ステップ重ね塗り



2色塗ったところ



【目からウロコ ①】

あまり手間をかけたくない場合は、図のようにフリーハンドで芯のはらで太い線を一気に塗っても概ね目的は果せます。

- 1 力を入れて強く塗ると色を重ねにくくなるので、濃く仕上げたい場合は薄く塗り重ねます。
- 2 明るい色と暗い色を塗り重ねる場合、暗い色を先に塗ります。
ただし、明るく仕上げたい場合は、明るい色を先に塗ります。
- 3 白は色を塗らないで紙の地を残します。

	黄	オレンジ	赤	紫	青	緑	アイボリー	水色	ベージュ	えんじ	深緑	わさび	黄土色	カーキ色	マホガニー	インディゴ	グレー	ライトグレー	
黄																			
オレンジ																			
赤																			
紫																			
青																			
緑																			
アイボリー																			
水色																			
ベージュ																			
えんじ																			
深緑																			
わさび																			
黄土色																			
カーキ色																			
マホガニー																			
インディゴ																			
グレー																			
ライトグレー																			

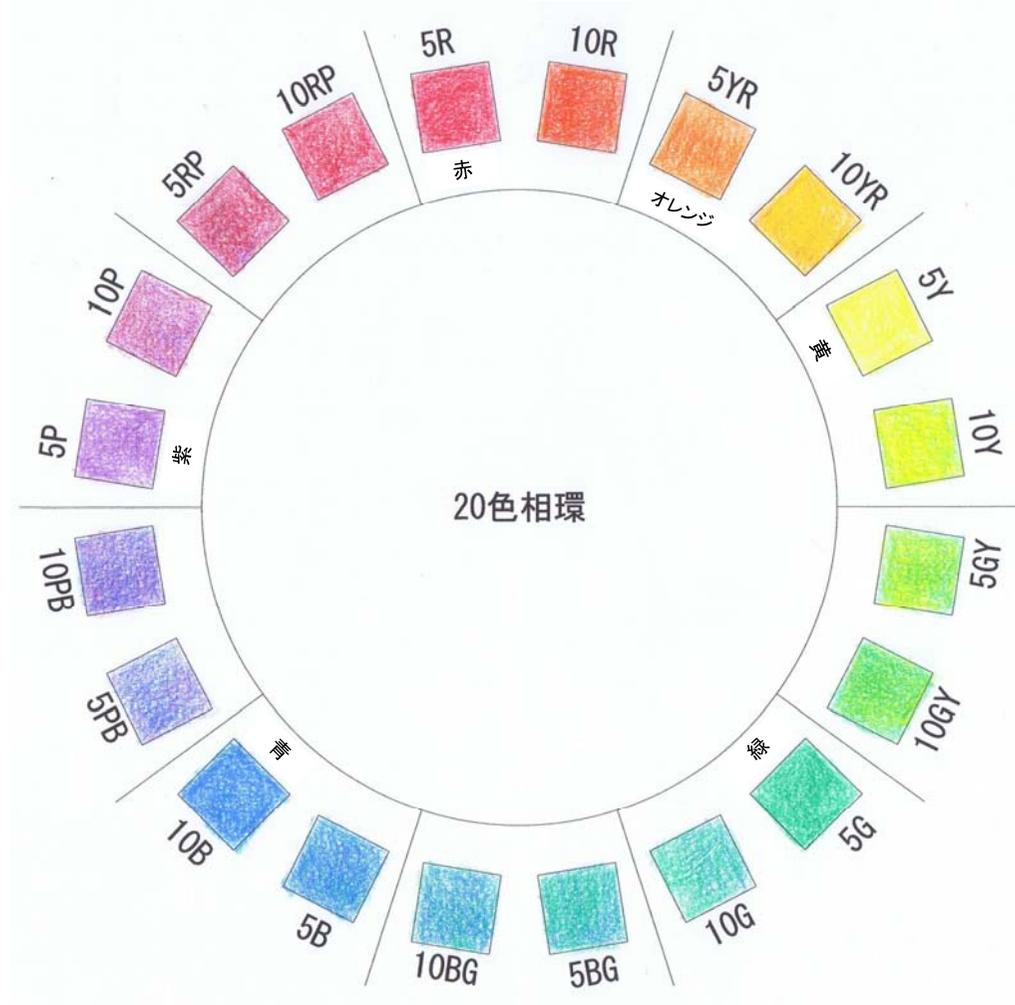
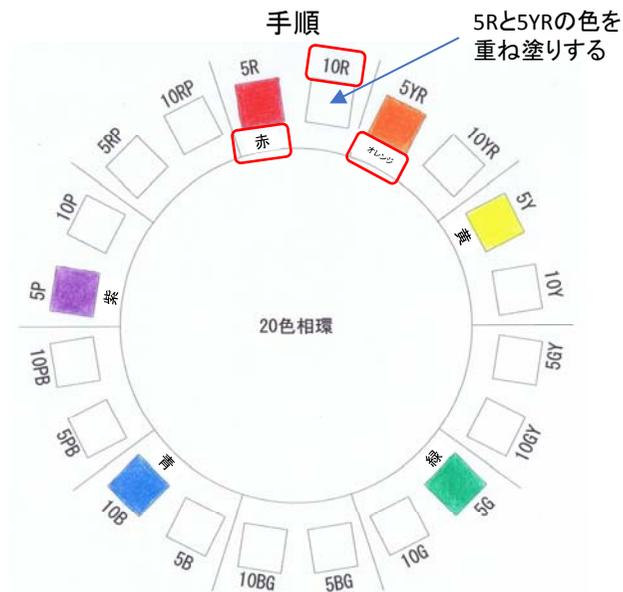
基本18色混色表

選んだ色鉛筆(18色)からどんな色ができるかあらかじめ確認しておくといでしょう。塗り重ねると色の組み合わせによっては予想外の色ができます。

第2回 色鉛筆による混色練習

2. 色相の調整

重ね塗りを利用して、色相の調整をすることができます。既存の高彩度の色を先に塗り、間の色相の色は両側の色を塗り重ねて作成します。遠目に見て色がきれいに並んでいれば成功です。



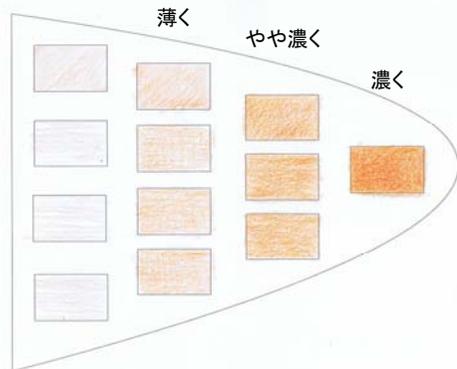
3. 明度と彩度の調整: 混色の手順 マンセル5YRの場合

使用色とその主な役割

	オレンジ	:ビビッド色
	ベージュ	:彩度を下げて明度を上げる
	カーキー色	:彩度を下げる
	マホガニー	:彩度と明度を下げる
	インディゴ	:明度と彩度を下げる
	ライトグレー	:彩度を下げる
	グレー	:彩度を下げる

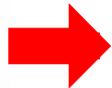
注: 寒色系の場合は、水色、ライトグレー、グレー、インディゴで明度・彩度の調整を行います

極めて薄く



まずビビッド色(オレンジ)の濃淡のみで彩度の差をつけておきます

明るい
↑
明度
↓
暗い



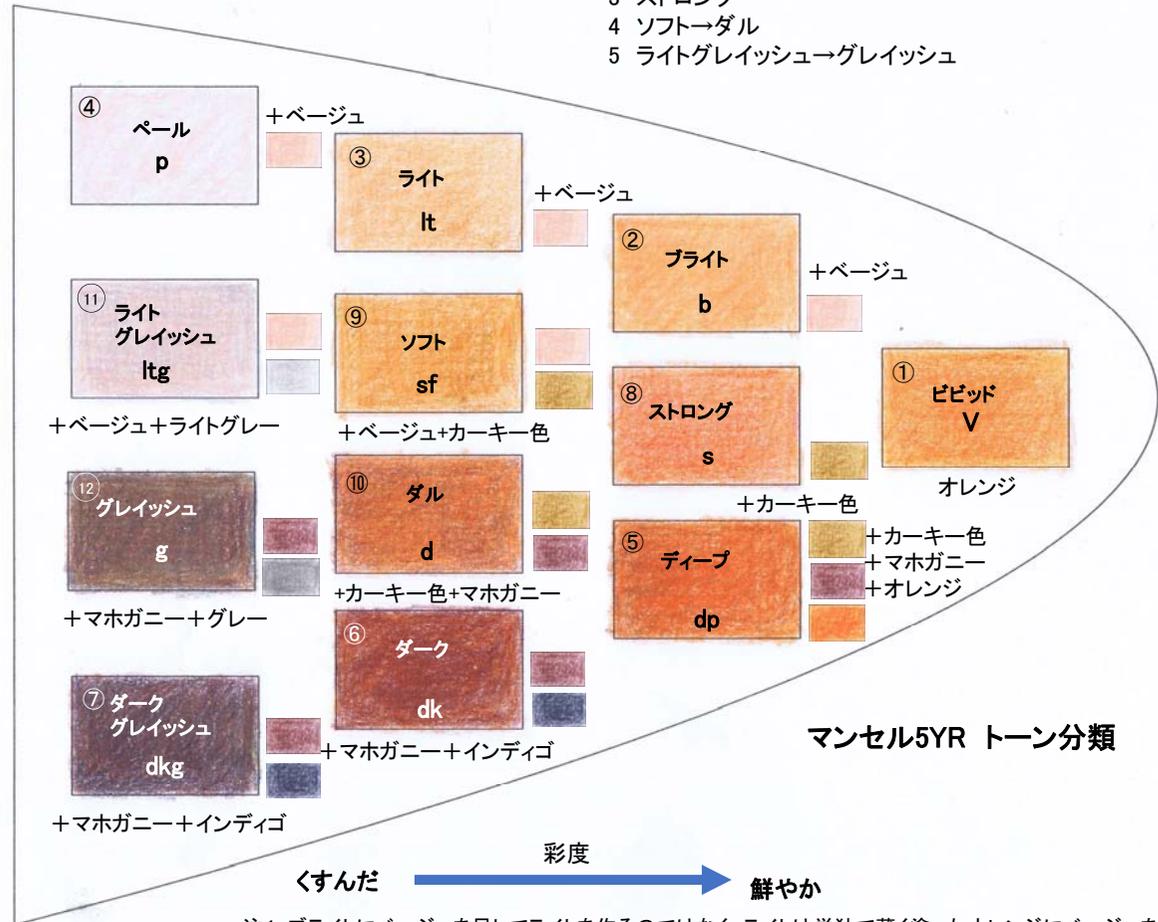
くすんだ ← 彩度 → 鮮やか

重ね塗りを利用して、彩度と明度を調整する方法を練習します。まず高彩度なオレンジを濃淡をつけながら先に塗り、中彩度・低彩度の色を重ねて彩度と明度を調整します。ディープは彩度を上げるために最後にオレンジを重ねます。遠目に見て、横に彩度の変化、上下に明度の変化が、きれいに見れば成功です。

【目からウロコ②】

以下の順に作業すると彩度の調整がしやすい 注1

- 1 ブライト→ライト→ペール
- 2 ディープ→ダーク→ダークグレイッシュ
- 3 ストロング
- 4 ソフト→ダル
- 5 ライトグレイッシュ→グレイッシュ



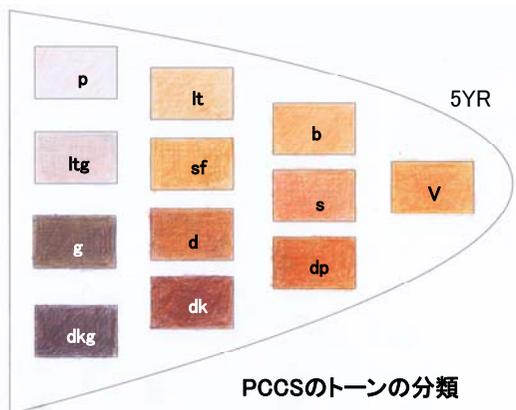
注1: ブライトにベージュを足してライトを作るのではなく、ライトは単独で薄く塗ったオレンジにベージュを重ねて作ります。ブライトの次にライトを作るとブライトよりも明るくすればよく、比較しやすいということです。

4. 同一色相によるインテリアの色彩計画例 暖色系5YR の場合

ここでは同じ色相の色を組み合わせせた色彩計画(暖色系の例としてマンセル5YRの場合)に応用します。

トーンを用いた色彩表記法について

色彩を表記する方法としてはマンセル記号が一般的ですが、色をマンセル値で言われても一般の人にはイメージすることは難しいでしょう。そこで色を明度と彩度の組み合わせで整理したものがトーンです。トーンを用いると、色をイメージしやすく、他者と色のイメージを共有することも容易です。



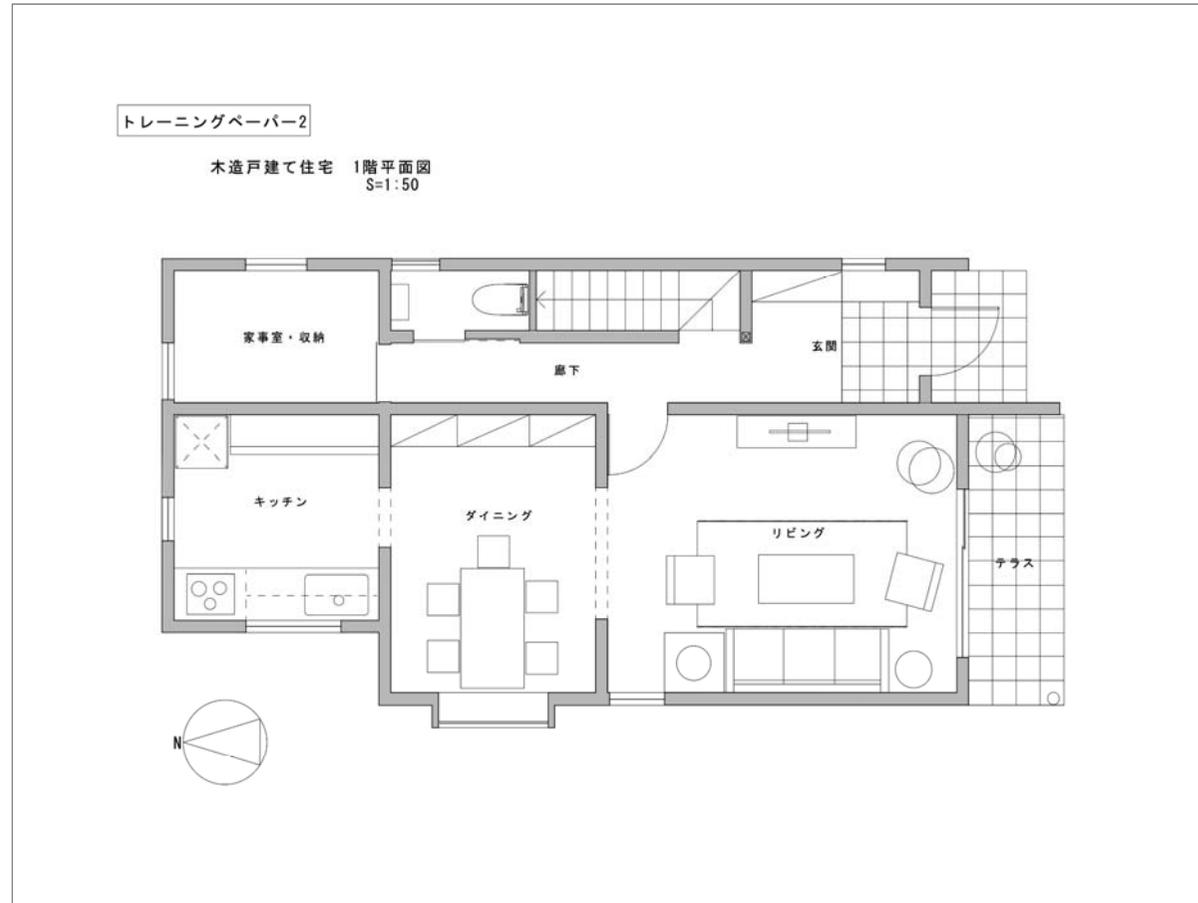
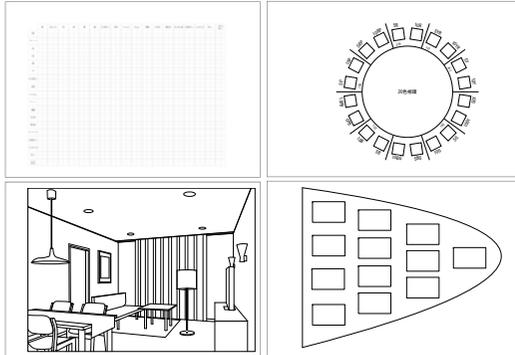
同一色相(5YR)による色彩計画例

この図は透視図の着彩練習ではなく、塗り重ねによる色の調整を練習するためのもので、質感や立体感の表現はあえて行っていません

5. 付録トレーニングペーパーの使い方

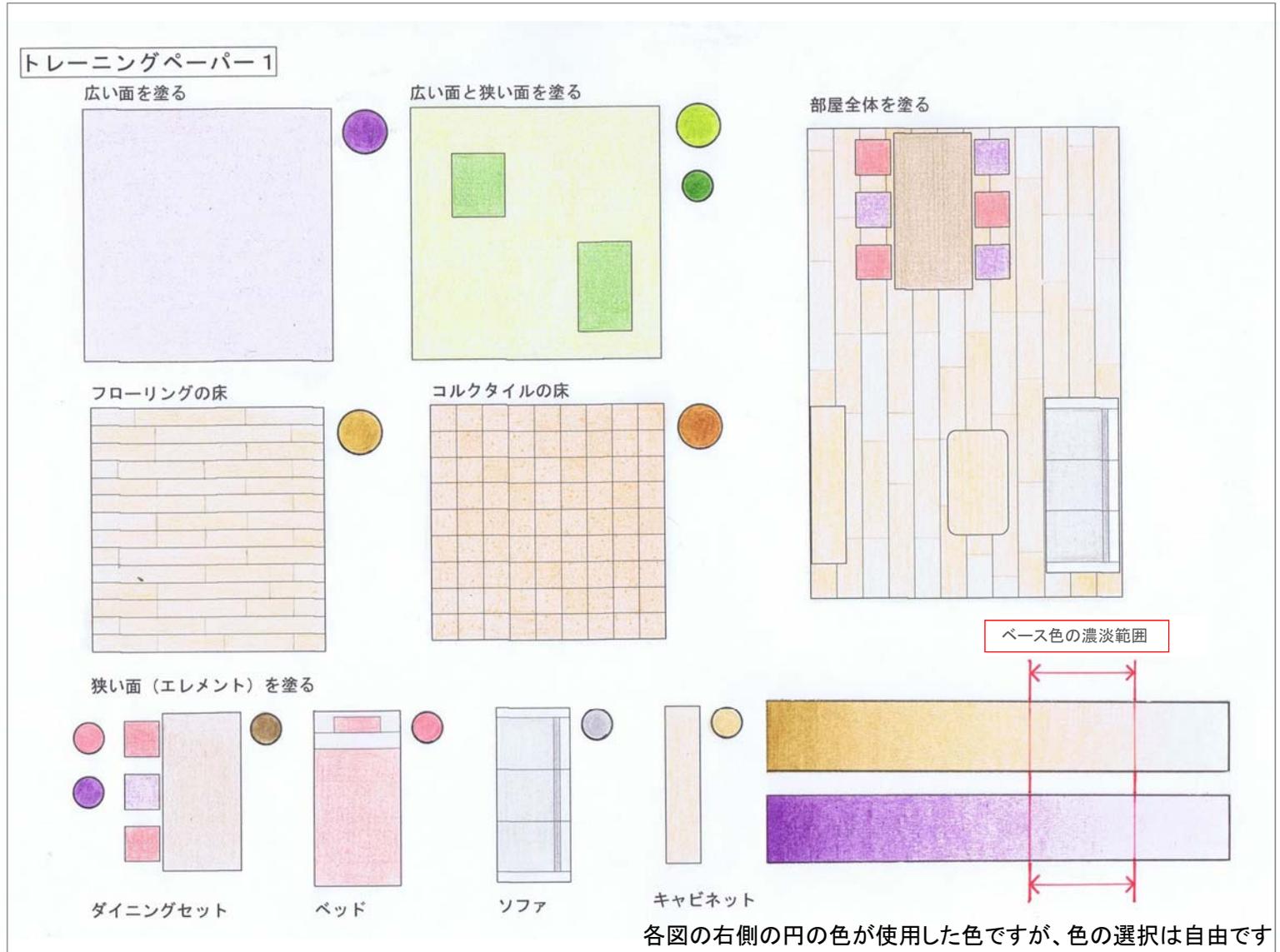
今回の講座内容をこのトレーニングペーパーで演習しましょう。各部屋の床にどのトーンの色を使うか計画を立ててから、塗ってみましょう。次回に参考作品を付けますので、ご自分の作品と比較してみてください。

今回の講座で使用した用紙も同時にダウンロードできます。



6. 前回付録トレーニング作例

柄を入れないで単色で塗る場合は鉛筆をできるだけ軽く持って、鉛筆を寝かしながら薄く、ゆっくりと均一になるように塗り重ねていきます。濃くなってしまったら、一度消してやり直すことも重要なポイントです。



インテリアの仕上げ材のテクスチャーは色と柄（パターン、木目、石目など）から構成されます。粗いタッチ、乱暴なタッチはその柄を表現することになります。次回詳しく説明します。



動画で見ることができます。